

MOCO通信

MOCOとは、「mother=母のような・やさしい」のMOと
「combination=結合」のCOからつけられました。
「きょうとMOCO」は京都府中小企業女性中央会の愛称です。

令和3年3月26日発行 第32号

編集・発行：きょうとMOCO
京都府中小企業女性中央会

〒600-8009 京都市下京区四条通室町東入ル函谷鉾町78番地
京都経済センター3階 京都府中小企業団体中央会内

☎ 075-708-3701

☎ 075-708-3725

URL <http://www.chuokai-kyoto.or.jp/kyotoMOCO>

令和2年度の取り組み ～ コロナ禍でのきょうとMOCO ～

令和2年度は、あらゆる場面で新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を受け、きょうとMOCOとしてどのような事業活動ができるのかを模索する1年となりました。

会員の皆さまの安心・安全、新型コロナウイルス感染症の拡大防止及び感染予防を第一に考え、第20回通常総会は書面議決により開催、創立20周年記念講演会、女性中央会近畿ブロック交流会は延期、他の事業は中止といたしました。

そのような中、新型コロナウイルス感染症拡大を機に、感染対策として多くの場面でWebを活用した会議や講演会・研修会の開催が急激に進みました。本会においても、山本理事が既に自社においてビデオ会議アプリ「Zoom」を活用されていることからサポートをしていただき、ZoomによるWeb会議の体験を兼ねて役員会を開催しました。Web会議と対面会議を併用することで、一人ひとりが参加しやすい方法で役員会を開催することが可能となり、コロナ禍の中での本会の活動を模索してまいりました。

本会では、会員の皆さまの安全を第一に考え、小さな一歩ずつではありますが、事業を止めずに進んでいきたいと考えております。



創立20周年を迎えて

平成12年（2000年）に創立以来、この度無事に20周年を迎えられましたこと、会員の皆さまをはじめ関係者各位に心より感謝申し上げます。

この20年間で様々な研修会、交流会、社会見学、全国フォーラム等に参加させていただきました。その中では他で得られない貴重な経験、体験、女性部ならではの有意義なコミュニケーションがあり、自分自身の人生においてとても豊かな財産となりました。特に全国フォーラムへの参加は各方面でご活躍中の女性達のパワーに刺激を受け、女性としての発想と感性、行動力に圧倒されました。参加する度に新たな発見、気づきがあり、仕事と家庭との両立を目指し立派に働いている女性が増えつつあるのはとても喜ばしいことです。



今回のコロナ禍を機に働き方や暮らし方が変わりつつあるなか、より良いネットワークを築きお互いに協力し合って女性部が今後ますます発展することを願っております。

（記：副会長 山本 敬子）

創立 20 周年を迎えて

創立 20 周年おめでとうございます。

私は、お付き合いが創立 5 周年に京都で開催した組合関係女性経営者等全国講習会でのお茶会のお手伝いから始まりました。さすが女性の会らしく華やかであったことが一番心に残っています。異業種の皆さんと研修会、見学、旅行と思い出を一杯頂きました。



しかし、20 周年はコロナ禍でなにもできませんでしたが、私にとってはたくさんの新しい経験をすることが出来ました。例えば、子どもたちが大変と言っただけで、お菓子が一杯届きました。食堂で使つてと野菜も届きました。IT に弱い私にも、LINE や Zoom 会議まで出来るようになりました。事務局では、事業者への支援のことを教えてもらい国からも府や市からも助けてもらえました。社員も安心して働いてくれています。異業種からのちょっとした意見が大きな助けになっています。これからもよろしくお願いします。（記：副会長 渡部 由紀子）



20 周年、ありきたりですが、あつと言う間でした。発足時これから色々な活動を皆さんと共に出来ることにワクワクしたことを覚えています。行事に参加したり、講演を聴いたり、どれも貴重な体験ですが、何よりも私にとっては色々な方と出会えてお知り合いになれたことが、この 20 年間の中での 1 番の宝物だと思います。常の活動拠点の自分のお店、商店街、その中だけで考えて動いていると、どうしても視野が狭くなってしまいます。女性会の活動に参加することにより、どれだけ広い世界を見せて貰ったか、沢山の意見や考えを聞かせてもらったか計り知れません。本当にありがとうございます。これからもますます大きい広い世界を見せて下さい。宜しくお願いします。

今、世界的に男女平等が叫ばれています。本当の平等って何だろうと問うた時、私の中では答えが出てきません。きっと全ての方が納得出来る答えを言える人はいないと思います。母の世代の男女差別、私（60 代）の世代の男女差別、次の世代の男女差別、同じ時代を生きていても世代によって明らかに違います。そして当然その次の世代もさらに変わっていくでしょう。どう変わっていくのかすごく気になりますよね。これは見なければなりません。ならばこの体を何とかメンテナンスして、もう暫くの間この世界の成り行きを見ていこうと思います。最後にこのような多様な時代に生まれたこと、そして MOCO に出会えたことに感謝致します。（記：理事 植村 繁子）



伊庭会長を始め役員の皆様、事務局並びに会員の皆様の大変なご苦勞を頂きましたお蔭を持ちまして、20 周年を迎えられたことを心よりお慶び申し上げます。女性達のみで運営される会と聞きますと派手な衣装と化粧とお喋りの会と危惧される方もあるかと思いますが、この会は真面目に地味に辛抱強い会です。



途中入会して 10 年足らずの私がこの会で喜びとしておりますのは社会見学です。通常では立ち入る事ができない所、例えば京都市消防本部での見学と説明、日本銀行京都支店内での説明や一億円相当の札束を抱えて重さの体験、京都市議会への訪問、京都新聞社、京都国際ミュージアム、河村能舞台への見学も心に残る体験でした。そしてこの時、職場も年齢も立場も違う会員それぞれが心を通わせ絆を繋ぐ端緒になったと思います。他にも研修会、交流会等あり今後も MOCO の活動に目が離せません。

（記：理事 古澤 光枝）

コロナ禍での活動

私は、2019年から、自然栽培プロジェクト「結ビジネス」のパートナー（代理店）の活動をしています。コロナ禍になるまでは、リアルにお目にかかって、事業の説明をしていたのですが、去年の5月くらいから、Z o o mによる個別の事業説明と、契約サイトにアクセスしていただいた契約に切り替わりました。慣れないZ o o mとサイトにアクセスしての契約で、はじめは大変でしたが、慣れてくると利点もいっぱいあります。移動時間も、お茶代も交通費もかかりません。おまけに、距離も関係ないので、北海道や海外の知り合いとも簡単に繋がれます。

今や、この仕事だけでなく研修や会議など、あらゆる活動がZ o o mに置き換わりました。コロナが収束しても、この状況は元には戻りませんね。時代の大転換期、風の時代になったそうです！吹き飛ばされないように、軽やかに風に乗っていきましょう！（記：副会長 和田 登美子）



M O C Oでは役員メンバーでライングループを作成しています。5月下旬、コロナ禍でのお互いの近況報告をいたしました。「頑張っていること」を聞いてもらうことでモチベーションがUPしました。そして「困っていること」を伝えると、メンバーが自分の出来る協力を行動して下さいました。

一人では孤独を抱え、行動も限られたものになりがちですが、人が集うと協力が生まれるのだなあと、とても暖かく心強い気持ちになりました。

どこかで「協力」は「強力」より強い！と見かけた言葉を思い出しました。

きょうとM O C Oは、研讃と相互連携を密にして交流機会の拡大を図ることを目的に活動しています。コロナ禍において、交流機会の形に工夫が必要となっていて参りますが、これからも会員の皆様とのコミュニケーションの中で支え合い・新たな創造を行っていかれたらと思います。（記：理事 遠山 あゆさ）



2020年が明けてしばらくすると新型肺炎が中国武漢から各地へ大変な広がりを見せていました。

私は、語学スクールを経営していたこともあり、中国の感染者情報を中国語で検索しリアルタイムで見えていました。日本の報道より情報を早くに得られたこともあり、周囲の方々にいち早く伝えることも出来ました。

そして、スクールでは1月26日から手の消毒やマスクの着用をお願いし環境消毒も徹底しました。その後、2月17日から自主的にスクール全体を休校にして安心できたのは良かったのですが、収入が入って来ないことに気づきオンライン授業をしなくては！と大急ぎでソフトを探しました。3月に入ってZ o o mを見つけることが出来て、先生と使い方の練習を重ね電子教材作りにも励みました。3月16日には独自でオンライン授業の募集を開始、未だその頃は大学でもオンライン授業の準備が出来ていない所が多数ありましたので、大学の教職員の方々にも使い方を教えてあげる活動もしました。



コロナ禍で当たり前が当たり前で無くなったからこそ、現行の形にとられず事業を転換するチャレンジが必要ですね。これからもコロナによって変わった環境の下、新たなビジネスチャンスを見つけることが出来ればと思います。（記：理事 山本 真己）

今、ここから「興（はじめ）」よう

真宗大谷派 僧侶 川村妙慶

新型コロナウイルスの影響で、世界中が大混乱に陥り、さらには緊急事態宣言の延長に伴い経済や社会に深刻な影響を与えています。このような状況の中で、中小企業経営者の皆様は事業継続のための戦略に頭を抱えておられるのではないのでしょうか。

私は、今回のコロナショックは、一つの「問い」を投げかけているような気がします。それは「コロナ禍で、人の動きが止まり人の価値観が変わって来た今、あなたの会社は消費者に何を提供できますか？」ということです。

過去にも、経済的な危機は10年ごとにやってきていました。先人たちがさまざまなことにチャレンジして進化してきた歴史に学ぶことは大切なのでしよう。私は成長する企業には4つの共通点があると思っています。



1) 社員とのコミュニケーションを深めている

社員に、技術を教えていくことも大切ですが、社員の魅力を上手に「引き出している」会社は、社員が気持ちよく働いています。まさしく経営者が心を解放し、人間を大切にしているところです。

2) つまらぬ噂話に左右されない

会社内で様々な噂話は巻き起こります。社員から「●●さんは仕事ができず、皆に嫌われています」と聞いたとします。その言葉を鵜呑みにするのではなく、まず経営者が直接会い、なぜ嫌われるのかを判断しているということです。噂だけではない経営者の目でたしかめているということです。

3) 柔軟な対応をする

企画を頭ごなしに否定するのではなく、まず聞き入れ、一緒に考えていく。部下を一方的に怒らない人は伸びています。

4) うまいいかないときは、スイッチを切りかえる。

コロナ禍で皆の心が疲れています。うまくいかないのは当たり前です。そのときには、ただ机で考えてもしかたがありません。動きながら、異業種の声も聴きながら、試行錯誤しているところは伸びています。

かつて、東日本大震災に遭い、被災者が途方に暮れているとき、ある方は「復旧は元に戻すこと、復興は新たに価値を作り直すこと」とおっしゃいました。つまり、「興」という字は、「上下2つの筒を、4つの手であげる姿」から成り立った字だそうです。つまり、力を合わせて物をあげる事を意味し、そこから、「おこす」、「始める」、「よろこぶ」を「興」と書かれたのです。

どうか、会社の格式と伝統を守り続けながら、このコロナ禍だからこそ、工夫する力を養い、柔軟に対応する復興策が生き残るヒントとなるのではないのでしょうか。大企業が見落としていることが沢山あるはず。そこを中小企業がいかに見つけていけるのか、チャンスではないのでしょうか。

さあ、今、ここから^{はじ}興めましょう。応援しています。

真宗大谷派 僧侶 川村 妙慶 氏

京都新聞「暖流」連載中、産経新聞「明日へのヒント」連載中

KBS京都ラジオ「川村妙慶の心が笑顔になるラジオ」毎週土曜日 午前8時より放送中

新刊本「人生後半こういきなはれ」講談社、「あした元気になるあれ」海竜社

